

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和3年6月24日

都道府県知事

内堀 雅雄 殿

提出者

住 所 福島県白河市白坂三輪台15番地1

氏 名 株式会社秋山建材  
代表取締役秋山浩治

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

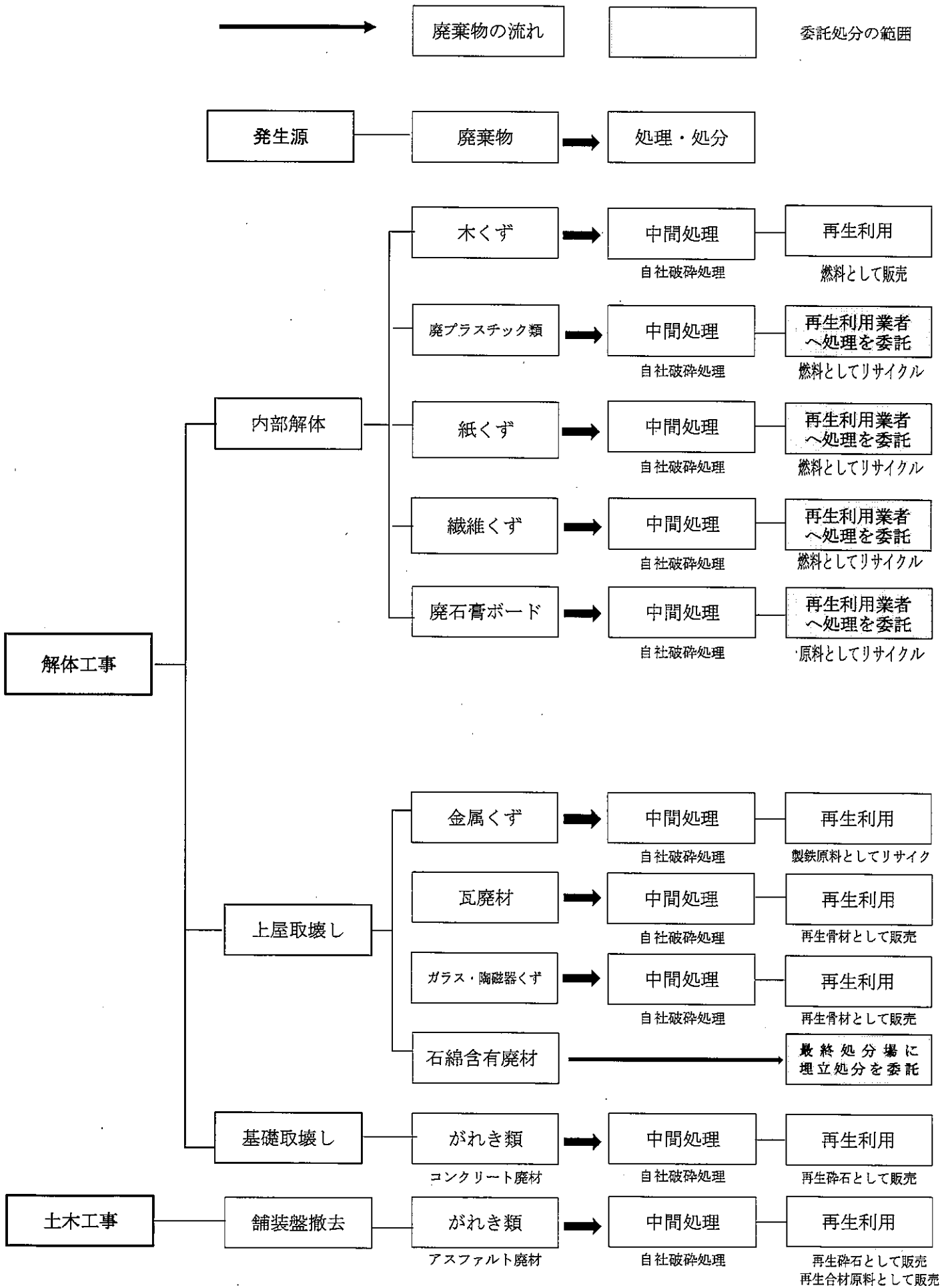
電話番号 0248-29-8880



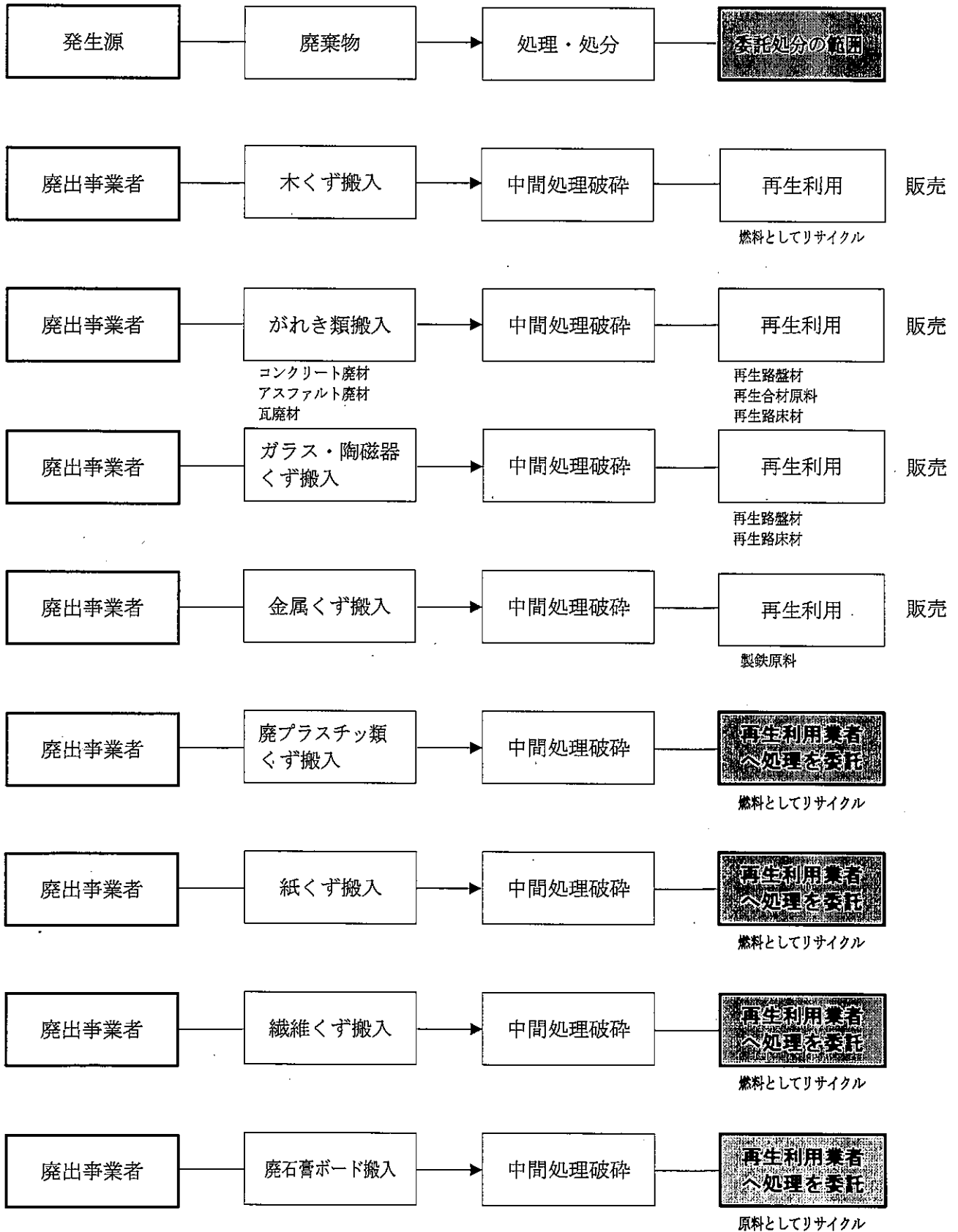
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他の処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社秋山建材
事業場の所在地	福島県白河市白坂三輪台15番地1
計画期間	令和4年4月～令和5年3月
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	識別工事業、産業廃棄物処理業
② 事業の規模	建設業、完成工事高¥689,000万円（2021年度）
③ 従業員数	21名（役員を含む）
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙処理工程表のとおり。

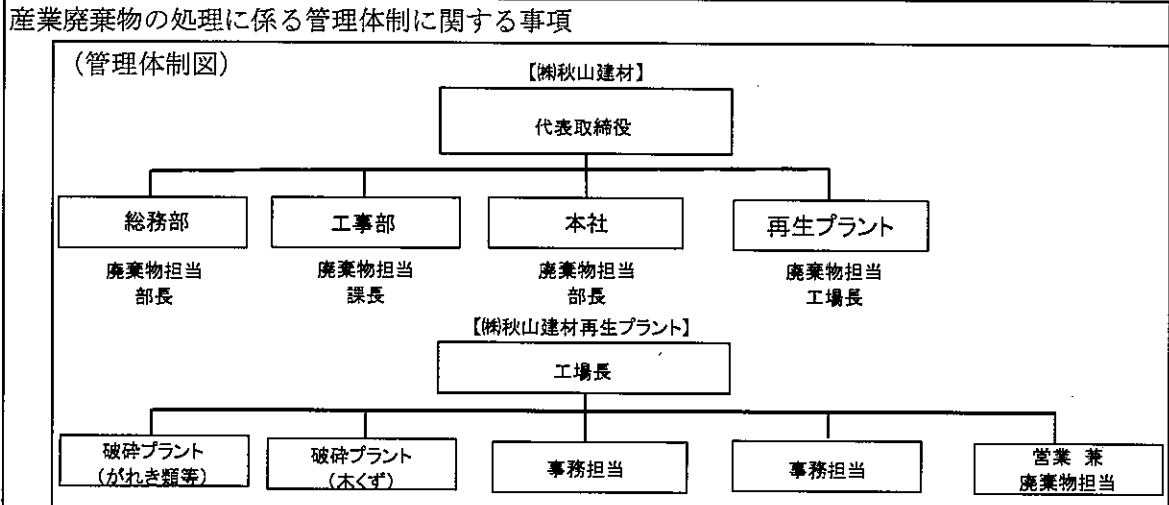
別紙処理工程表(株)秋山建材（本社）No.1



別紙処理工程表 (株)秋山建材 (再生プラント) No. 2



(第2面)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	コンクリート廃材	アスファルト廃材
	排出量	1,179.30 t	59.36 t
	(これまでに実施した取組) 分別解体及び異物の除去		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	コンクリート廃材	アスファルト廃材
	排出量	1,000 t	50.0 t
	(今後実施する予定の取組) 解体工事現場における各廃材を、種類ごとに集積保管及び搬出。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず及び陶磁器くず、がれき類等の分別解体の徹底。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) がれき類（有筋コンクリート）から、金属くず（有価物）を分別して搬出。

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項	
(管理体制図)	

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度（令和3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	木くず	—
	排出量	1.17 t	— t
	(これまでに実施した取組) 分別解体及び異物の除去		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	木くず	—
	排出量	1.0 t	— t
	(今後実施する予定の取組) 解体工事現場における各廃材を、種類ごとに集積保管及び搬出。		

産業廃棄物の分別に関する事項	
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず及び陶磁器くず、がれき類等の分別解体の徹底。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 自社処理施設において、再生木材（燃料チップ）として出荷できるよう、異物の完全除去。

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	
	排出量	2.5 t	t
	(これまでに実施した取組) 分別解体及び異物の除去		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	
	排出量	2.0 t	t
	(今後実施する予定の取組) 解体工事現場における各廃材を、種類ごとに集積保管及び搬出。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず及び陶磁器くず、がれき類等の分別解体の徹底。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 自社処理施設において、再生破碎（路盤材、路床材）として出荷できるよう、異物の完全除去。

## 産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

## 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	—
	排出量	2.21 t	— t
	(これまでに実施した取組) 分別解体及び異物の除去		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	—
	排出量	2.0 t	— t
	(今後実施する予定の取組) 解体工事現場における各廃材を、種類ごとに集積保管及び搬出。		

## 産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず及び陶磁器くず、がれき類等の分別解体の徹底。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラスチック類及び紙くずを、マテリアルリサイクル及びサーマルリサイクル向けに分別。

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項	
(管理体制図)	

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度（令和3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	金属くず	—
	排出量	3.90 t	— t
	(これまでに実施した取組) 分別解体及び異物の除去		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	金属くず	—
	排出量	3.9 t	— t
	(今後実施する予定の取組) 解体工事現場における各廃材を、種類ごとに集積保管及び搬出。		

産業廃棄物の分別に関する事項	
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず及び陶磁器くず、がれき類等の分別解体の徹底。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 金属くずを、再生原料として売却できるよう、分別解体の徹底。



## (第3面)

## 自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	コンクリート廃材	アスファルト廃材
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	1,179.30 t	59.36 t
	(これまでに実施した取組) 公共事業及び民間工事縮減により、発生量は減少傾向にあるが、100%再利用できるため、再生砕石等に利用し循環型社会に対応。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	コンクリート廃材	アスファルト廃材
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	1,000 t	50.0 t
	(今後実施する予定の取組) 処理工程の見直し、選別作業等の効率よいラインに切り替え、品質の向上に取り組む。		

## 自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（      年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組)			

## 自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	2.50 t	
	(これまでに実施した取組) 公共事業及び民間工事縮減により、発生量は減少傾向にあるが、100%再利用できるため、再生砕石等に利用し循環型社会に対応。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	—
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	2.50 t	— t
	(今後実施する予定の取組) 処理工程の見直し、選別作業等の効率よいラインに切り替え、品質の向上に取り組む。		

## 自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（      年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組)			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	金属くず
	全処理委託量	2.21 t	3.90 t
	優良認定処理業者への処理委託量	— t	— t
	再生利用業者への処理委託量	2.21 t	3.90 t
	認定熱回収業者への処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) 発電所及び製錬用燃料として処理を委託。		

## 自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

## 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和2年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	木くず	—
	全処理委託量	1.17 t	— t
	優良認定処理業者への処理委託量	— t	— t
	再生利用業者への処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者への処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	1.17 t	— t
	(これまでに実施した取組) バイオマス発電の燃料として委託。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	金属くず
	全処理委託量	2.0 t	3.0 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	— t	— t
	再生利用業者への 処理委託量	2.0 t	3.0 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) 再生利用先の拡大。		
※事務処理欄			

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	木くず	
	全処理委託量	10.0 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	— t	t
	再生利用業者への 処理委託量	— t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	— t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	10.0 t	t
	(今後実施する予定の取組) 再生利用先の拡大。		
※事務処理欄			

②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	
	全処理委託量	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t
	再生利用業者への処理委託量	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t
(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄		

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じた事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

請  
じ  
ま  
と。  
中  
間  
量  
行  
取  
あ  
へ  
と  
の  
入